

平成 27 年 12 月 21 日

鹿児島大学病院で転移性膵腫瘍と診断された患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、過去に転移性膵腫瘍と診断された患者さんの過去の記録をまとめることによって行います。このような研究においては、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされています。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、下記の【問い合わせ先】へご照会ください。

【研究課題名】

転移性膵腫瘍に関する後ろ向き多施設共同研究

【研究機関】

鹿児島大学病院 消化器センター 消化器内科

【研究責任者】

橋元 慎一（消化器内科 助教）

【研究の目的】

転移性膵腫瘍は剖検例で、悪性腫瘍剖検例の15%に認められると報告されています。その中で胃原発が20%と最も多いとされていますが、周辺臓器からの直接浸潤が含まれており、真の転移性膵腫瘍のデータとなっておりません。一方、膵腫瘍の外科切除症例では、転移性膵腫瘍は1-4%と報告され、大半が腎癌で次に肺癌、胃癌の順となっています。しかしながら、膵切除により予後の改善が認められている腎癌の割合が高く、これも真の転移性膵腫瘍を反映しているものではないと考えられます。

近年各種画像検査及び超音波内視鏡下穿刺吸引法（以下EUS-FNA）の普及により、以前に比べて比較的早期に診断できる症例が増えてきています。EUS-FNAにおける転移性膵腫瘍の原発に関しては、腎癌、肺癌、悪性黒色腫に代表される皮膚癌、乳癌、大腸癌、リンパ腫に代表される血液癌が多いと報告されていますが、報告されている論文の症例数は20-60例程度と少なく、生命予後や治療法などの記載も殆ど含まれ

ていません。

本研究は転移性膵腫瘍の原発臓器の内訳，確定診断に至った病理免疫組織学的診断方法，選択された治療法，予後について検討し，生存中に診断される転移性膵腫瘍の実態を把握することを目的としています。

【研究の方法】

- 対象となる患者さん

平成 17 年 1 月 1 日～平成 27 年 8 月 31 日までに鹿児島大学病院消化器内科を受診し、転移性膵腫瘍と診断された患者さんを対象にしています。

- 利用するカルテ情報

(1) 臨床情報：

- ◎ 性別，年齢，診断時の既往歴（悪性腫瘍の既往，急性膵炎，慢性膵炎の既往の有無），自覚症状の有無。

悪性腫瘍既往ありの場合，診断時の TNM 分類，cStage，膵炎既往ありの場合，時期と重症度。

- ◎ 血液検査所見(転移性膵腫瘍診断時)：

各種腫瘍マーカー（CEA, CA19-9, Span-1, DUPAN2），アミラーゼ，膵アミラーゼ，リパーゼ。

- ◎ 腫瘍情報

腫瘍の大きさ，部位（膵頭部/膵体部/膵尾部），個数。
膵以外の転移の有無とその部位。

(2) 病理組織学的評価項目：

- ◎ 組織診断のための方法(EUS-FNA, 内視鏡的生検, 経皮生検, 手術)。

- ◎ HE 染色での評価。

- ◎ 免疫学的染色での評価。

(3) 治療法：

- ◎ 原発診断確定からの治療法(手術, 化学療法, 放射線療法, BSC など)。

- ◎ 膵転移確定診断後の治療法。

(4) 生命予後：

- ◎ 原発診断確定から膵転移までの期間。

- ◎ 膵転移判明からの生存期間。

【個人情報の取り扱い】

使用する検体からは，お名前や住所など，患者さんを直接特定できる個人情報は削除します。また，研究成果は学会や学術雑誌などで発表されますが，その際も患者さんを特定できる個人情報は使用しません。

【研究の資金源等、関係機関との関係について】

この研究は、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科消化器疾患・生活習慣病学分野の研究費で実施します。企業等からの寄付は受けていませんので、利害の衝突は発生しません。

【問い合わせ先】

〒890-8520 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号
鹿児島大学病院 消化器内科 助教 橋元 慎一
電話 099-275-5326 FAX 099-264-3504